

城下町探訪 8

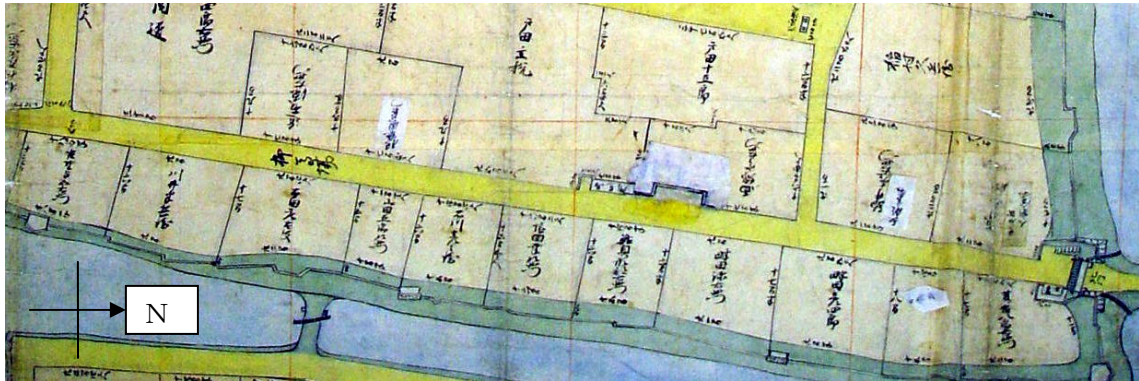
2009/5/21

柳馬場・葵馬場・北馬場

松本藩^{ば ば}の馬場は以下のように4カ所ありました。

①柳馬場^{やなぎの ば}（柳町馬場）

現在の市役所本庁舎と東庁舎の間の南北に延びる道路のうち、深志橋通りと直行するあたりから日銀松本支店の南端までをいい廃藩まで馬場として使用されていました。



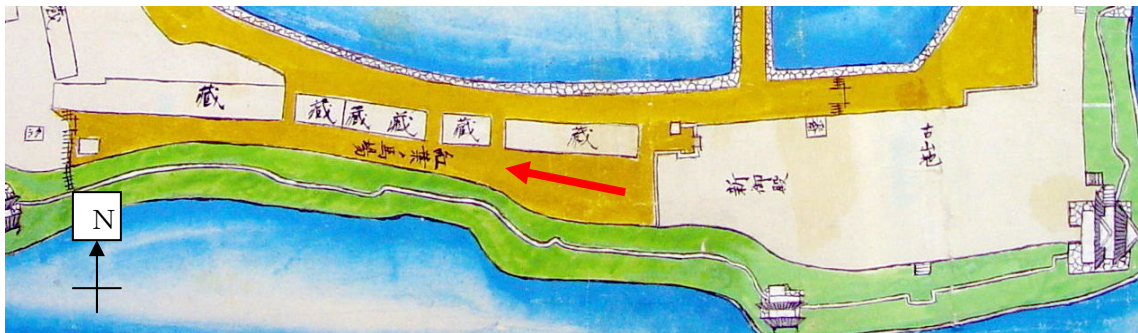
享保十三年秋改松本城下絵図 柳馬場

馬場は馬術の習練の場所として使用され、長さは126間2尺(約229m)幅5間(約9m)で西側に馬見所^{うまみどころ}が少しへこんで設けられています。享保十三年の絵図では「柳馬場」と書かれていますが、昭和八年刊「松本市史」では「柳町^{やなぎまち}の馬場」と記されています。現在、この道に立って南方向をのぞむと右写真の様に馬場の直線コースを実感できます。



②紅葉^{もみぢ}の馬場^ば

二の丸新御殿の西側の南土手の上にあり、ここは藩主の馬術の稽古場でした。

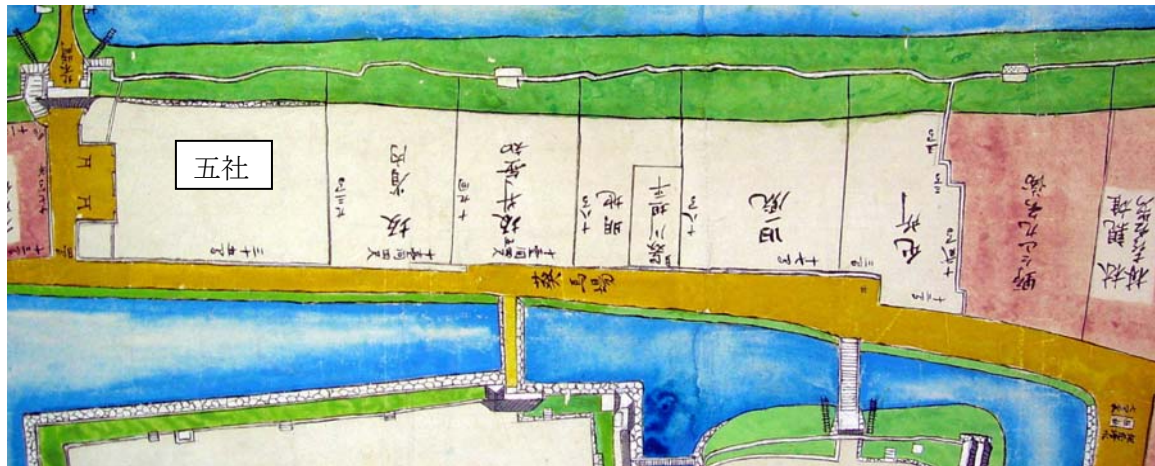


天保六年松本南北深志絵図 紅葉の馬場

新御殿^{こさんじごてん}は古山地御殿が手狭になったため寛政11年(1799)古山地御殿の西側に造られました。紅葉の馬場は新御殿の西、南外堀土塁と藩庫の間にありました。

③天神馬場 天神小路の土手を隔て南に沿って東西にありました。馬上試合・打毬等に
使われ通常の馬場ではありませんでした。(※城下町探訪 22 宮村大明神・天満宮・天神馬場で触れる)

④葵^{あおい}の馬場^{ばば} 戸田氏が元和 3 年に入封し馬場の土手に葵を植えたことから呼ばれるよう
になりました。葵の馬場は長さ 60 間（約 109m）で本丸裏門の西付近から絵図で厩から 3
間東の所迄でした。厩が葵の馬場の北側にあり 50～60 頭の馬を飼っていました。



天保六年松本南北深志絵図 葵の馬場

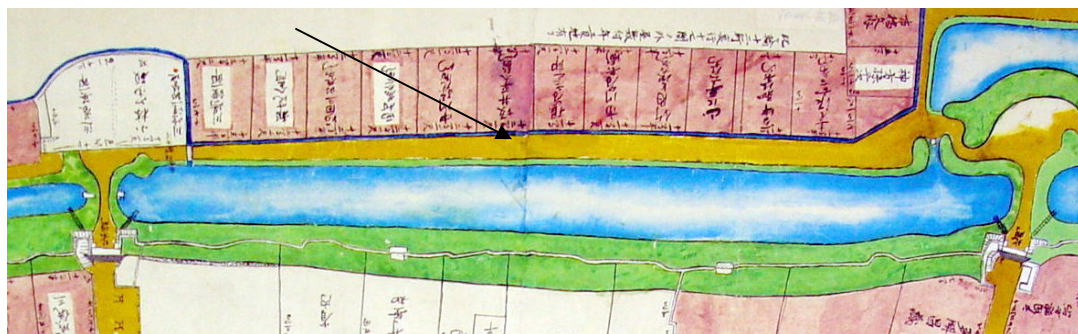


葵の馬場跡



道沿いに植えられるようになったタチアオイ

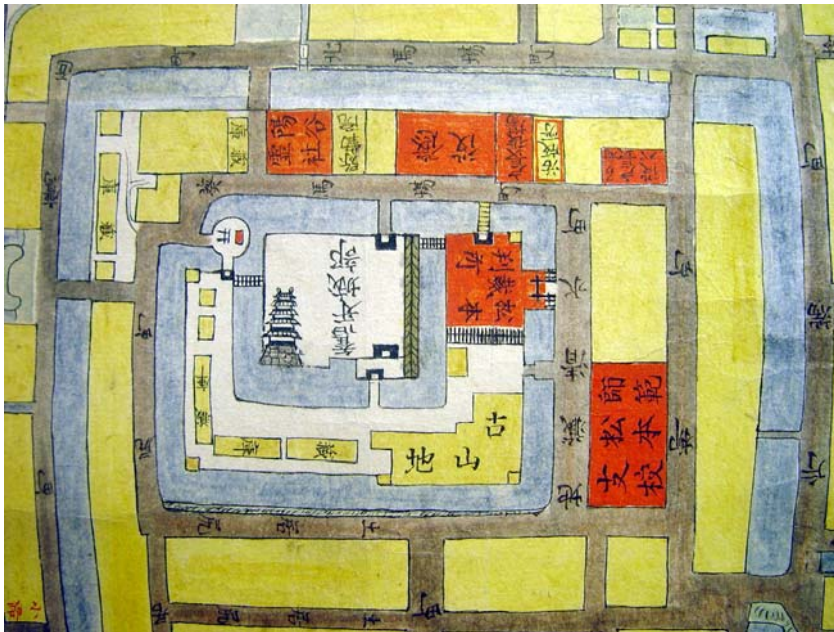
⑤北馬場



天保六年松本南北深志絵図 北馬場

北総堀の北側に北馬場がありました。「信府統記」は北馬場、東西百五十九間余（約289m）と記しています。昭和8年刊の松本市史は「葵の馬場・北馬場も住古使用したるべし」とあり時代が下るにつれてこの二つの馬場は段々使用されなくなっていたものと思われます。

松本藩の馬術は「大坪流」と「当流」の2派がありました。「大坪流」の師範は塩田嘉内・塩田清太夫・後藤清之進の3人で生徒は60~70人、葵馬場・柳馬場・紅葉馬場が教場でした。「当流」の師範は坂井無知之助・坂井熊之助・小松仲の3人で生徒は70人で教場は大坪流と同じでした。馬場は明治4年に廃止されました。



左絵図は「明治12年南北深志町地図」ですが、葵の馬場のあった所は「葵馬場町」に北馬場のあった所は「北馬場町」になっており馬場のなごり名残を町名に残しています。

北馬場の南側は北総（惣）堀で昭和8年市民プールの建設にともなって埋め立てられました。



北馬場跡



北馬場の柳の井戸

北馬場跡の東側で現在市職員の駐車場の一面に総堀埋め立て地の中に自噴していた湧水を地元の人々が整備し大切に守っている北馬場柳の井戸があります。江戸時代の文化年間に作られたと推定される松本城下絵図にはほぼ同じ位置に「井」の印がつけられており古くからこの所は地下水が自噴していたと考えられます。